

愛荘町まちじゅう読書の計画(「愛荘町子ども読書活動推進計画(第3次計画)」「愛荘町読書バリアフリー推進計画」)のパブリックコメントに対する町および図書館協議会としての考え方

意見	今日、小学生でもスマホを持つ子が増え、ソーシャルメディアの普及には目を見張るものがある。一方で、子どもによるソーシャルメディア利用による弊害が世間に認知されてはいても改善されない現状がある。そのような現状で、当町が子どもたちの読書習慣に積極的に取り組んでいることが頼もしい。 この計画を読んで初めて知ったのだが、図書館司書を小学校に派遣しているという取り組みがあった。実績として図書の貸出数として表れており、成功事例と言える。すでに行われているかもしれないが、学校で児童や生徒が行っている図書委員会にも積極的にに関わり、委員会活動の在り方や活性化について一緒に考えても良いのではないだろうか。今後も更なる取り組みに期待したい。 私自身、2 週間に 1 度は図書館に足を運び気に入った作家の本を読み漁っている。当町の図書は管理状態も良く、また新刊も早い段階で入庫されており、大変重宝している。また、他市町に比べ、漫画も充実している。漫画と一言に言っても、その存在は馬鹿にはできない。文学的にも優れた作品も多く、私も度々借りている。また私が読書が楽しいと思ったきっかけが漫画であった。日本の歴史シリーズを漫画で読み、歴史に興味を持ちさらに深く知りたいとの思いから小説に入ってしまった経緯がある。人によってきっかけは様々であろうが、幼い頃にこのきっかけを作ることは後の読書との付き合い方に大きく影響を及ぼす。様々なきっかけを子どもたちに用意してあげたい。 図書館が様々な取り組みを行っているにもかかわらず、私は恥ずかしながらこの計画を読むまで殆どその取り組みを知らなかった。企業とコラボした「読書でガチャコン」は詳しくは分からないが面白い取り組みだと思ったし、確か今年度の夏休みに図書館が「読書感想文のお手伝い」を行っていたように記憶している。また大人向けには「古文書の読み方」を講義形式で行っていたのではなかったか。取り組みは素晴らしい。しかし一方で対象となる人に情報がしっかり行き渡っていたのか。また子ども対象であれば親にもその情報が伝達できていたのだろうか。すばらしい取り組みであっても皆が知らなければ行っていないのと同じである。広報活動がしっかり出来ていたのであればそれで良いが、今一度より良い方法はないのか検証していただきたい。 読書というのは、ただの趣味にとどまらなないと私は思う。学生であれば受験で読解や作文に役立つし、年齢を問わず豊かな人生の糧になる。だからこそ幼少の頃からスマホでなく読書に親しんでほしいと心から願っている。 例えば、読書カード(主人公は誰・誰が何をした・結果どうなった・あなたが主人公ならどうした←小説であれば)など簡単な質問形式の報告書を作り、これを年間 5 枚で銅賞、10 枚で銀賞、20 枚で金賞など、私たちの子どもの頃の「琵琶湖一周マラソン」になぞらえた目標を作ってはどうか。「読書でガチャコン」にも似ている
----	---

	が、頑張った児童・生徒に対し、文具のノベルティなど用意しても良い。ノベルティで釣るのはどうかという考えがあるかも知れないが、先にも書いた通りきっかけなど何でも良いと私は考える。ノベルティ欲しさに、この読書カードを書くため読書に取り組んだ結果、読書の面白さに気づく児童が数十人いたら、それは素晴らしい成果だと考える。 愛荘の 2 館の図書館を活用し、この計画に則り、より多くの子どもたちが読書に親しみ、豊かな人生を送ってくれることを心から願っている。
回答	今後の図書館およびまちじゅう読書推進計画の広報についてのご意見として承ります。図書館ではこれからも、大人、子どもを問わず愛荘町のみなさまの読書を支えるとともに、みなさまに役立つ施設となるよう努めてまいります。